日本ファンドレイジング協会

2020年度 年次総会

2019年度 Special Partner

「寄付・社会的投資が進む社会の実現」に向けて
一緒にチャレンジする法人パートナー

- 2019年度パートナー -

ゴールドパートナー

GOEN

JACK BEANS

Social-Japan
Social-Japan.Watch

TRUST BANK
株式会社 トラストバンク

FUNDREX

シルバーパートナー

GoodMorning

2020年度　Special Partner

「寄付・社会的投資が進む社会の実現」に向けて
一緒にチャレンジする法人パートナー

ゴールドパートナー

GOEN

TRUST BANK
株式会社 トラストバンク

FUNDREX

RITAWORKS

シルバーパートナー

Microsoft

社会貢献を楽しむ!!

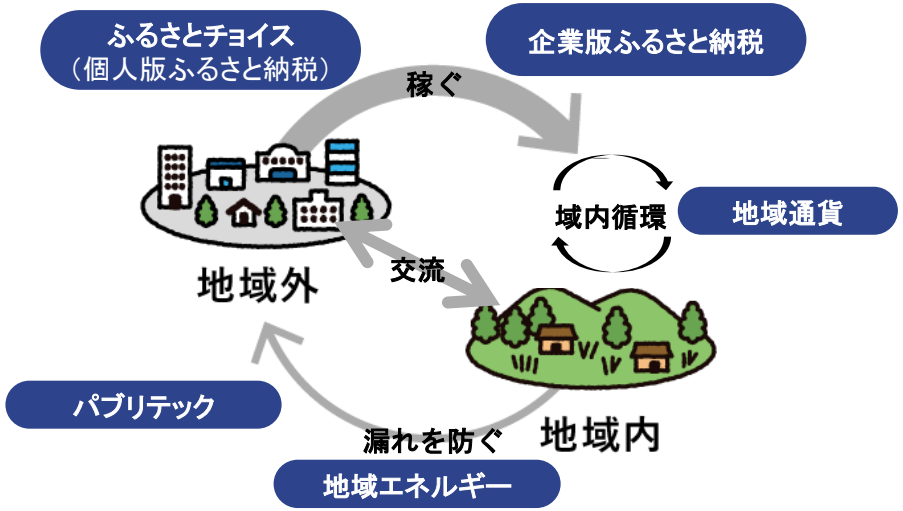
チーム GOEN

私たちは、CRM(顧客との関係構築)の専門家です。
私たちはプロフェッショナルとして、ひとりの社会人として
日本の寄付市場の活性化を応援しています！！

TRUST BANK

自立した持続可能な地域をつくる
～ICTを通じて 地域とシニアを元気にします～

弊社は、ビジョン「自立した持続可能な地域をつくる」、ミッション「ICTを通じて 地域とシニアを元気にします」のもと、地域間、地域内外での「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」を循環させることで、地域に活力を生むための事業を展開しています。



ふるさと納税を活用した寄付プラットフォーム「ふるさとチョイス」の運営を、弊社の主力事業として取り組んでいます。

ふるさとチョイス

日本最大級のふるさと納税総合サイト。全国の自治体への寄付に対するお礼の品や使い道を多数紹介しています。

ガバメントクラウドファンディング®

自治体の課題をプロジェクト化して、共感による寄付をふるさと納税で募ります。自治体と共同で事業にあたる様々な団体の活動にも活用されています。

災害支援

災害発生時、迅速に寄付受付フォームを立ち上げ復旧復興に必要な寄付をふるさと納税で募り、被災地を支援します。

調査・分析

成長可能性
調査分析

ベストプラクティス
調査分析

市場・競合
調査分析

インパクトマネジメント

ロジックモデル
・KPI設計

評価計画
設計

成果
モニタリング

評価実施
・改善提案

戦略策定

事業戦略
策定

ファンドレイジング
戦略策定

広報・マーケティング
戦略策定

エコシステム
構築

研修・人材育成

講演・
階層別研修

人材開発
計画設計

ICTによる経営の高度化

データベース
導入・活用支援

WEBコンテンツ
設計

オンライン
ファンドレイジング設計

実行支援

ハンズオン
支援

伴走型
支援

イベント
企画・運営

パートナー
開拓

“社会を変える”を実現する
－Challengeに戦略と実行力を－

FUNDREX

RITAWORKS®

リタワークスはNPOのファンドレイジング支援・ホームページ制作に特化したWEB会社です。無償で広報ツールを助成するプログラムも主催しています。まずはお話、聞かせてください。

ファンドレイジング

ファンドレイジングに必要なすべてを コングラントひとつで

✓ NPOの活動を広める　✓ 寄付を集める　✓ 支援者や寄付金を管理する

日本全国の小さな活動を真剣に応援する
ファンドレイジングツール　congrant（コングラント）

congrant

コングラントは、NPO・非営利活動の資金調達を支援する、総合ファンドレイジングツールです。
全国540団体以上のNPO・非営利活動にご利用いただき、
20,000名以上の方々から5億以上の寄付が集まっています。

詳しくはこちら

ホームページ

制作実績50団体以上！ NPO専門チームがホームページの 制作・運用をお手伝いします

NPO専門ホームページ制作・運用サービスNPO Webider

Webider

詳しくはこちら

助成プログラム

プロのクリエイターたちが NPOの広告ツールを無償で 制作する助成プログラム

クリエイティブ助成プログラム SOCIALSHIP 2019

SOCIALSHIP

詳しくはこちら

リタワークス株式会社

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-22-17 西船場辰巳ビル6F　　お問い合わせ：0120-777-265 / fr@ritaworks.jp

民間非営利組織で活動されている皆さまへ

日本社会に根差し、日本において社会的投資を発展させていくために、テクノロジを通して、NPO セクターの更なる活躍と成長を応援します。本協会コミュニティにおける皆さまとのクリエイティブな協業、そして有益な情報発信を目指します。

日本ファンドレイジング協会

2020年度 年次総会

2019年度事業報告

2020年度事業計画

セオリー・オブ・チェンジ2030

① 想像を超えた新たな資金循環を生み出すチャレンジが誘発され、成長している

② 寄付者自身が、寄付を「成功体験」や「自身の幸せにつながる」と感じる状態が実現している

③ 次元の異なるスケールの資金循環が生み出せている

④ 寄付・社会的投資の成長のためのエコシステムが枠を超えて構築されている

⑤ 社会のお金の流れを生み出すプロフェッショナルが活躍できている

©日本ファンドレイジング協会

TOC2030初年度の主要アウトカム（議案書　2頁）

1. **想像を超えた新たな資金循環を生み出すチャレンジが誘発され、成長している**

・ ファンドレイジング・日本を「場」の熱量により参加者の意識変容、行動変容を促す（チャレンジを誘発する）システムと位置付け、FRJ2019に向けて具体的な仕掛けを検討し実行した。
・ ファンドレイザーのチャレンジの可視化、応援の仕組みとしてのサロン事業を実施。

2. **寄付者自身が、寄付を「成功体験」や「自身の幸せにつながる」と感じる状態が実現している**

・ 社会貢献教育が子ども達や社会に与える社会的インパクトを明らかにし、その結果を広く発信していく仕組みづくり
・ 寄付白書2021の出版に向けた準備の開始。

3. **次元の異なるスケールの資金循環が生み出せている**

・ 遺贈寄付推進のためのエコシステムを強化。
・ 多様で新しいプレーヤーの参画による資金循環の創出として、ファミリー財団の設立支援の仕組みを検討する。
・ 大きな社会のお金の流れを作るための仕掛け作りとして、社会性評価・認証制度構築などの新たな仕組みづくりに着手。

©日本ファンドレイジング協会

TOC2030初年度の主要アウトカム （つづき）（議案書　2頁）

4. 寄付・社会的投資の成長のためのエコシステムが枠を超えて構築されている

・ SDGs時代におけるファンドレイジングの意味や意義を明確化した上で、その促進を事業を通じて行なっていく。
・ 寄付・社会的投資推進のための政策提言をソーシャルセクターだけでなく経済団体とも協調して行なっていく。
・ グローバルネットワークとのアライアンスを強化し、課題「解決」先進国として日本がリーダーシップを発揮できる状態に貢献（AFPとの連携、社会的インパクト投資の国際ネットワークなどへの積極的な参画）

5. 社会のお金の流れを生み出すプロフェッショナルが活躍できている

・ ファンドレイザーの裾野と活躍の場を広げるために、研修の新規開発や新たなキャリアパスの構築に着手。
・ ファンドレイザーや社会貢献教育ファシリテーターの認知度向上のためにリブランティングや表彰制度の検討を開始。

©日本ファンドレイジング協会

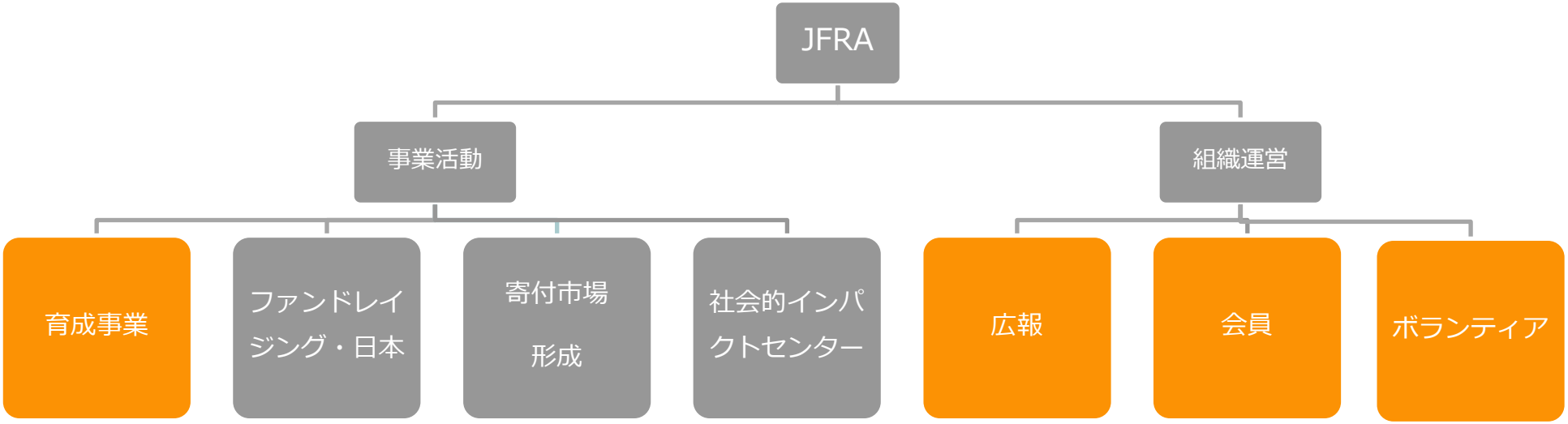
寄付や社会的投資が進む社会の実現に向けて

社会のお金の流れを生み出す
ファンドレイザーが
活躍できる社会を実現する

マネージング・ディレクター

宮下　真美

担当領域とチームメンバーの紹介



スクール・ボランティア

岩元 暁子

細貝 朋央

研修・試験・個人会員

小川 まき

チャプター・講師派遣・法人会員

久保 匠

広報

鈴木 瞳

吉見 新

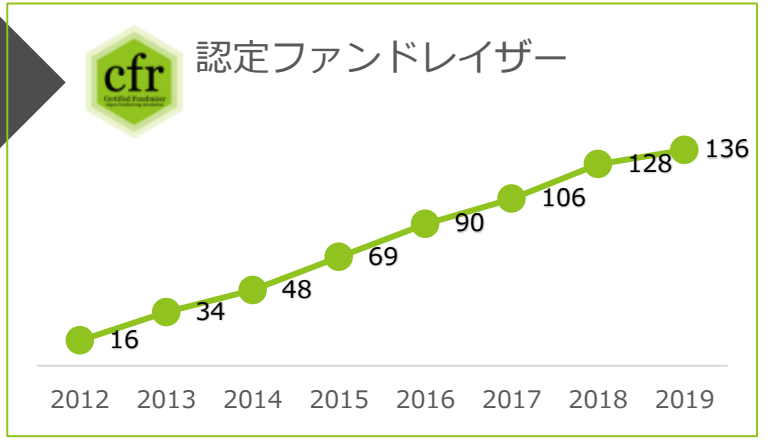
©日本ファンドレイジング協会

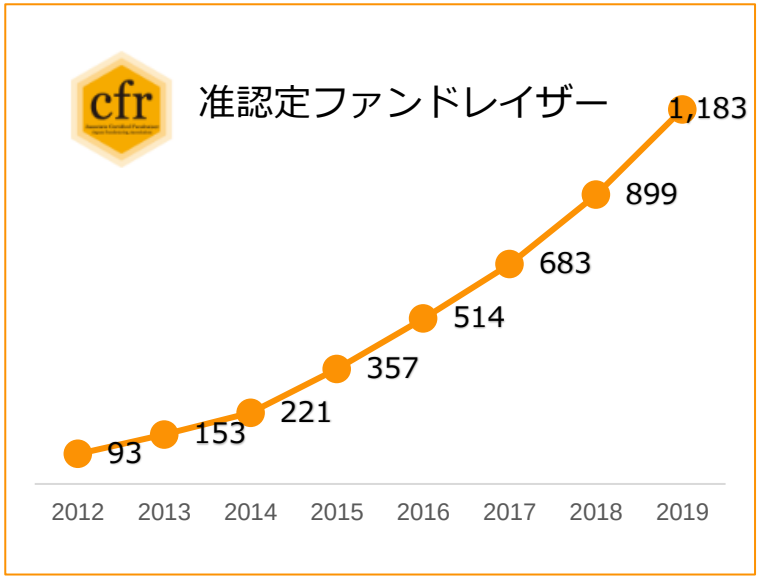
体系的な知識の習得

必修研修 → 選択研修 → 検定試験

全体像を学ぶ
基礎講座

専門性を高める
スキルアップ研修



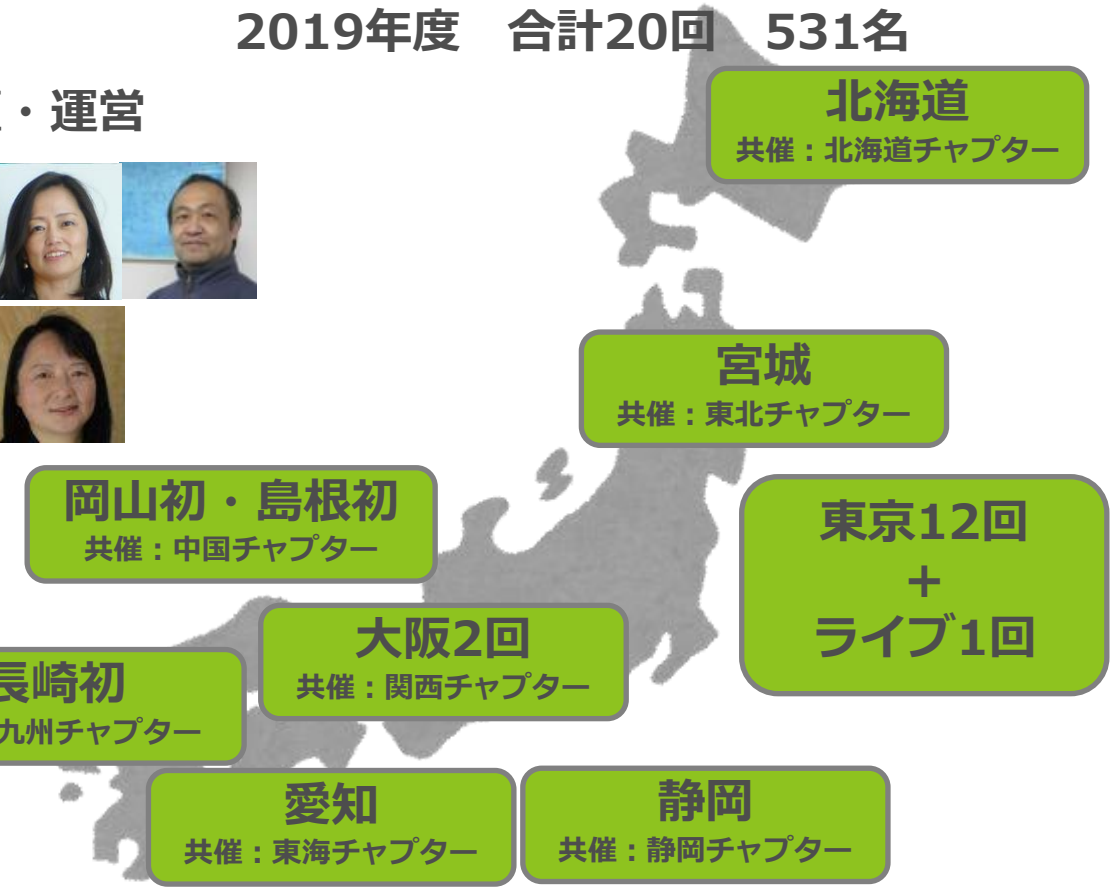


©日本ファンドレイジング協会

准認定ファンドレイザー必修研修

2019年度　合計20回　531名

地域のファンドレイザーの皆様が登壇・運営



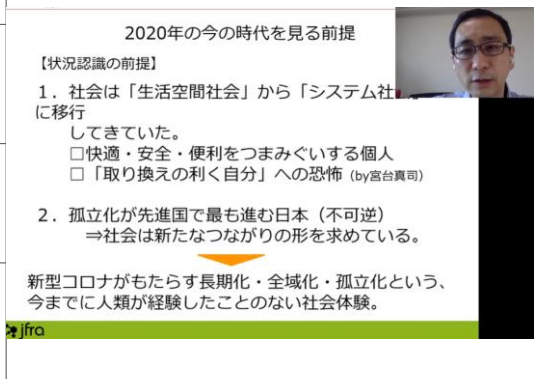
これまでに　4,846名が受講（※現時点）

©日本ファンドレイジング協会

選択研修

2019年度　549ポイント（549時間分）

協会主催	134pt
協会主催（アーカイブ研修）	27pt
チャプター主催	86pt
パートナー団体主催	239pt
認定講師による研修	63pt



salesforce.org × NPOサポートセンター

©日本ファンドレイジング協会

ファンドレイザー育成事業（議案書2頁・別添11-16頁 ）

認定講師

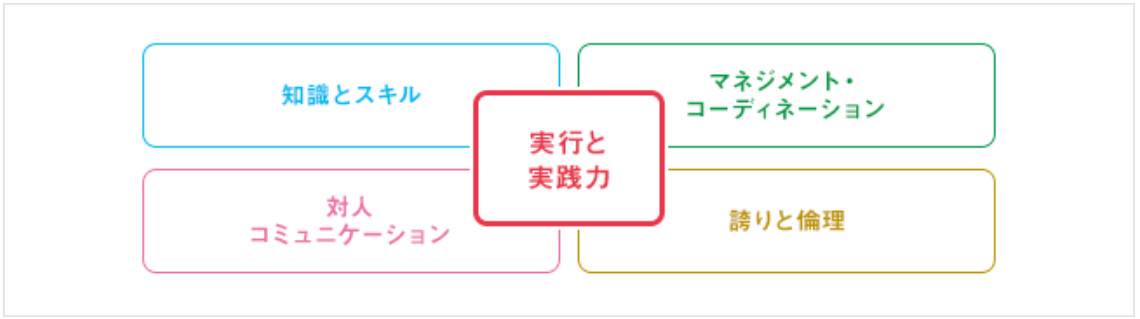
吉田　富士江　Fujie Yoshida

福笑楽美合同会社 代表
日本ファンドレイジング協会大学チャプター共同代表
大阪大学連携ファンドレイザー

©日本ファンドレイジング協会

ファンドレイジング・スクール

どんな組織であっても、いかなる状況であっても
組織と事業を成長させることができる実践力を



2016年第1期	12名
2017年第2期	16名
2018年第3期	25名
2019年第4期	17名
2020年第5期	29名

©日本ファンドレイジング協会

オウンドメディアでの情報発信・外部メディアの取材協力

ファンドレイジングジャーナル　144本（会員限定記事含む）

247,273PV（67,266PV）

メルマガ配信　28本　購読者数6,667名

Facebook　8,301フォロワー

メディア掲載

取材依頼はpr@jfra.jpまで

©日本ファンドレイジング協会

会員（議案書 9頁 ）

1,913名の会員の方が全国に

北海道	66名
青森	4名
秋田	3名
岩手	14名
山形	11名
宮城	34名
福島	23名
新潟	23名
富山	8名
石川	7名
福井	6名
鳥取	4名
島根	7名
山口	25名
広島	27名
岡山	14名
香川	8名
愛媛	15名
高知	11名
徳島	3名
福岡	50名
佐賀	8名
長崎	6名
大分	6名
熊本	16名
宮崎	5名
鹿児島	5名
沖縄	9名
兵庫	47名
京都	45名
滋賀	31名
大阪	89名
奈良	10名
和歌山	5名
岐阜	15名
愛知	65名
三重	18名
静岡	34名
長野	30名
山梨	9名
群馬	15名
埼玉	79名
栃木	15名
茨城	14名
千葉	68名
神奈川	191名
東京	685名

ゴールドパートナー

GOEN　TRUST BANK 株式会社トラストバンク　FUNDREX　RITAWORKS

シルバーパートナー

Microsoft

72の団体会員

会員（議案書9頁 ）

地域・専門分野でのつながり

大学チャプター

グローバルチャプター

北海道チャプター

東北

関西

中国

東海

静岡

全国福祉チャプター

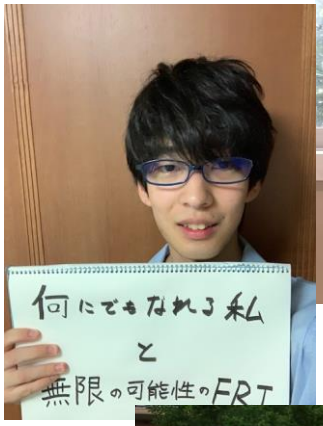
九州

アートチャプター

©日本ファンドレイジング協会

ボランティア（議案書9頁 ）

330名のボランティア



献血ヴァンパイア（佐々木隆）のバースデー・ドネーションたすきリレー

認定NPO法人 日本ファンドレイジング協会

15,500円 目標:20,000円

今年もバースデー・ドネーションリレーのタスキを繋げたい。

認定NPO法人 日本ファンドレイジング協会

22,222円 目標:20,000円

©日本ファンドレイジング協会

2020年度計画（議案書 26頁）

関心をもつ

行動KPI
・大学向け演習の実施
・資格制度説明会
・アーカイブ動画の充実
・情報発信
成果KPI：参加人数

学ぶ

いつでもどこにいても学べる状態

行動KPI
・研修オンライン化
・試験CBT化
成果KPI：参加人数

実践力を磨く

行動KPI
・ファンドレイジングスクール
・会員向けライブセミナー
・認定ファンドレイザー必修研修
成果KPI：参加人数

アウトカム

直接 / 中間 / 長期

【個人】ファンドレイザーの5つの能力が向上する → **【組織】が成長する** → **【業界・地域・社会】が成長する** → **【社会】課題が解決される**

成果KPI：資格者数

行動KPI
・団体向け研修
・講師派遣
（オンライン化対応）

行動KPI
・分野向け研修
・推奨機関の拡大

©日本ファンドレイジング協会

寄付や社会的投資が進む社会の実現に向けて

寄付市場の形成

マネージングディレクター

大石 俊輔

2019年度　社会貢献教育事業の成果（議案書 4-5頁）

1.社会貢献教育を**全国68教室2,277名**に提供

→◎ 順調：**累計、301教室・9,695名**に提供！
東京都教育庁「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」の連携により劇的に推進

2.ファシリテーターの育成とスキルアップ

→◎ 順調：**21都道府県・87名**が活躍！
基礎研修4回・52名参加、スキルアップ研修2回・18名参加

©日本ファンドレイジング協会

3.推進委員会の立ち上げとポータルサイトの構築

→〇概ね順調： 社会貢献教育ファシリテーター、学校教諭、ボーイスカウト日本連盟、日本赤十字社などで構成される委員会を主に検討。制作に若干の遅れ。

7月中：ローンチ（予定）
9月～：コンテンツ追加→**子どもたちの取り組み発信**

4.プログラムの成果評価

→◎順調：本教育プログラムが**受講児童生徒の社会貢献意識の醸成に高く貢献**していることが判明。詳細は、事業報告書。

©日本ファンドレイジング協会

2020年度　社会貢献教育事業の計画 (議案書 28頁)

　前年度に引き続き事業単体での自走を目指すと共に、選択と集中による施策の実施による社会貢献教育のエコシステム化の確立を目標。全国の約80名のファシリテーターを中心に、各地の独自モデルや教材、相談窓口などが随時発信され、それを真似る学校や地域がどんどん出てくる状態を目指す。東京都教育庁との連携モデルを深化・進化させる。

重点目標

- 社会貢献教育ポータルサイトを中心とした情報のワンストップ化と事例創出
- 東京における推進・マッチングモデルの構築
- 財源の確保（助成金、法人協働、個人サポーター）

©日本ファンドレイジング協会

クラウドファンディングの実施について

©日本ファンドレイジング協会

2019年度　調査研究事業（寄付白書）の成果（議案書 3-4頁）

1. 寄付白書2021の出版に向けて企画方針の検討に着手

「寄付から社会的投資まで含めた新しいお金の流れの統計データ集」
・調査対象年を2020年1～12月として寄付白書2021として出版
・推計、単純集計と社会的投資と10年振り返り特集など
・製本は限りなく簡素化も目指す
・出版年月は、2021年10月（予定）

2. 売上実績
・寄付白書2017販売実績＝353冊・85万9,619円
・寄付白書2017データ販売実績＝1件・10万円

©日本ファンドレイジング協会

2020年度　調査研究事業（寄付白書）の計画 (議案書 27頁)

寄付へのポジティブな空気の醸成として、次の寄付白書「寄付白書2021」の出版に向けて進めていく。

スケジュール
2020年1~3月 予算編成、4~5月 事業計画の詳細策定、6月 発行研究会立ち上げ
6~12月 研究会(詳細方針確定、内容、調査項目の検討、調査以外部分執筆)
7~9月 GJ基金集め準備、11~12月 クラウドファンディング
2021年2月 実査、4月 集計納品、6月 推計、集計部分の原稿執筆、7月 原稿納品、8~9月 校正、10月 出版

実施体制
編集:日本ファンドレイジング協会
執筆:寄付白書発行研究会
アドバイザー・コラム執筆者など

©日本ファンドレイジング協会

2019年度　ファンドレイジング・日本2019開催 (議案書 3頁)

FRJ2019
ファンドレイジング・日本

-課題「解決」先進国を目指して-

　ファンドレイジング・日本2019の開催を2019年9月14日・15日に開催。記念すべき10回大会として大成功をおさめた。
　チャプター、講師、協賛社、ボランティア、認定・准認定ファンドレイザーの各立場からなる価値向上プロジェクト実行委員会の立ち上げによる参加型の大会運営や、協賛社との次世代ソリューションプロバイダーのアイデアコンテスト【IDEAS for IMPACT 2019】の開催など、チャレンジぐな取組みを行った。

日程：2019年9月14日,15日
場所：駒澤大学駒沢キャンパス・3号館（種月館）および記念講堂
参加者数：1,674名
セッション数：65セッション
講師：130名
協賛社：34社

©日本ファンドレイジング協会

FRJ2020　オンライン

＃FRJでつながる

日程：9月5日(土)-12日(土)

9月5日(土)・6日(日)・12日(土)の3日間、
ライブセッションを開催。

大会期間中に限り公開される
多数の動画セッションやギャザリングを予定。

詳細発表は7月中旬

©日本ファンドレイジング協会

遺贈寄付推進
社会的インパクトセンター

マネージングディレクター

清水潤子

遺贈寄付推進事業の取組み

～未来への想いを遺贈に託し～

©日本ファンドレイジング協会

遺贈寄付：2019年度 活動報告 (議案書 5-6頁)

全国レガシーギフト協会と協働をし、以下の事業を主軸として行っていく

- 年賀寄附金助成活用による受遺団体の機能強化につながるための研修実施
- より受遺団体や寄付者のニーズに合う寄付の在り方を検討・提供できるように、遺贈寄付のアドバンス研修の開発
- 普及啓発のツール等を利用し、金融機関やサービス提供者、士業や一般市民へ広く遺贈寄付の普及啓発・周知

©日本ファンドレイジング協会

育成事業（サロン・研修プログラム）（議案書 5-6頁）

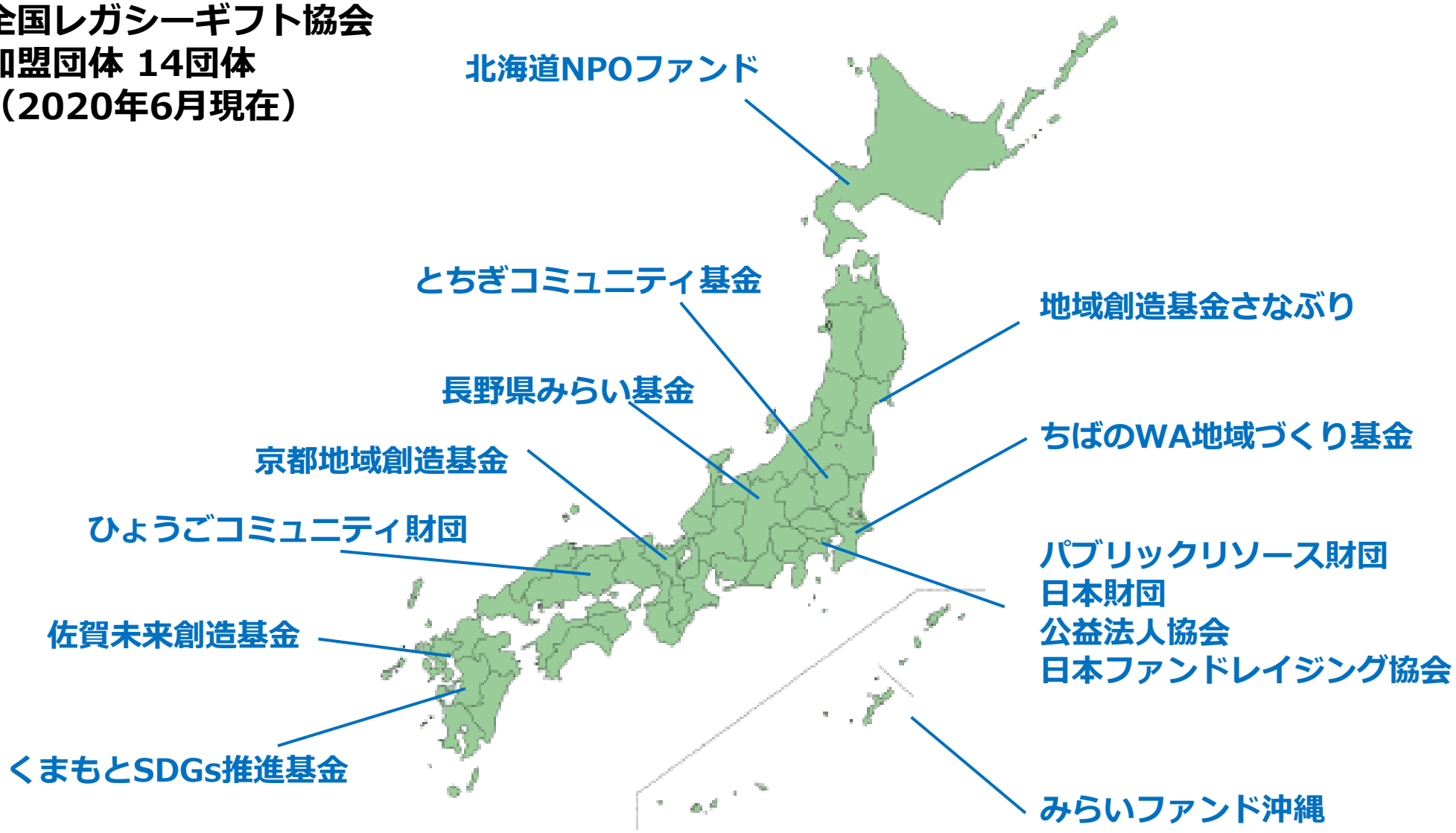
“より遺贈寄付のノウハウを備えた法人や士業の誕生する“

- 全5回の遺贈寄付サロンの企画・提供により、遺贈寄付に関わる法人のコミュニティ化
- サロンのコンテンツのモデルが出来たことにより、研修内容等のレパートリーが拡大
- NPO向けアドバンス研修のコンテンツ第1弾を構築

©日本ファンドレイジング協会

「いぞうの窓口」（議案書 5-6頁）

全国レガシーギフト協会
加盟団体 14団体
（2020年6月現在）



©日本ファンドレイジング協会

全国レガシーギフト・フォーラム2019」開催(12/4)

日本で初の遺贈寄付関連のフォーラム、全国から115名参加
パネルディスカッションで、内容の満足度は非常に高かった
（「非常に満足」＋「満足」で100%)

提 言

【1】自己実現や誉れとしての遺贈寄付の周知

【2】遺贈寄付のストーリーの可視化

【3】多様な遺贈寄付の方法の確立と普及

【4】寄付者・仲介者・受遺団体のネットワーク構築

【5】意思決定を支える遺贈寄付プランナーの存在

©日本ファンドレイジング協会

2020年度 活動計画 (議案書 28頁)

- FRJ2020におけるセッション等をと通した情報発信により、遺贈寄付コンテンツを全国レベルへ提供
- 全国レガシーギフト協会が開催する日本初遺贈寄付グローバルキャンペーンに協力し、遺贈寄付の特集をもつメディアと連携し、寄付者個人への遺贈寄付の啓発を図ることによる遺贈の認知の 向上を図る。

- 寄付白書で遺贈寄付の市場規模の紹介
- 研修での事例の紹介・新しい連携の模索（相続アドバイザー等）
- JFRA自身が受遺団体となり基金の創設をめざす（社会貢献教育等へ）

©日本ファンドレイジング協会

2019年度 活動報告 （議案書 7頁）

社会的インパクトセンター
Social Impact Center

１）評価・研修モデル作り関連
- 内閣府委託事業「令和元年度社会性評価・認証制度に係る調査・実証事業」
- GSG国内諮問委員会「社会性評価・認証モデルプロジェクト」
- 休眠預金資金分配団体向けPO研修の企画・運営業務
- 「社会的インパクト マネジメントイニシアチブ（SIMI）」の事務局運営

２）社会的インパクト投資関連
- 岡山市ソーシャルインパクトボンド事業「岡山市生涯活躍就労支援事業」
- 佐倉市でのモデル事業実施2年目（厚生労働省から の受託）
- 池田市での評価モデル構築および評価業務を実施した。

３）社会的インパクト評価・事業評価関連
- 「こども宅食」のコンソーシアムメンバーとして社会的インパクト評価を実施
- 「障害者芸術文化活動普及支援ガイド」活用の ためのワークショップを同事業の全国会議やブロック会で実施
- 千葉県からの依頼で社会的インパクト評価や組織評価に関する研修実施
- 休眠預金資金分配団体からの休眠預金事業の評価伴走依頼による実行団体向けの評価研修実施
- 協会事業である社会貢献教育の成果評価
- チャプ ターや評価伴走経験者からの声をもとに、草の根的な活動をしている団体や、資金規模が大きくなくても 出来る団体への研修として、同規模感で評価を取り入れている団体と評価伴走者によるパネルディスカッ ションスタイルの研修を10月・11月に関西・東京で実施。

©日本ファンドレイジング協会

2020年度 活動計画 （議案書 28-29頁）

社会的インパクトセンター
Social Impact Center

＜大事にしたい姿勢・原則＞

- 今年度も昨年度に引き続き調査・研究の結果を活かした課題解決の仕組みや制度作り等を併せて行 う「ドゥ・タンク（行動集団）」として活動する。
- 特に、新型コロナウイルス による複雑性や不確実性が高い状況下において、変わりうる社会性やインパクトに関するパラダイム や、寄付者や投資家の動向等についても慎重に観察しつつ、システムの声に耳を傾け柔軟に対応する。
- 社会性やインパクトの多義性などを考慮した、本質的に、国、自治体、事業者、当事者、 投資家/寄付者にとって重要かつ通底するインパクトやインパクトマネジメントの普及を行う。

©日本ファンドレイジング協会

2020年度活動計画 (議案書 28-29頁)

社会的インパクトセンター
Social Impact Center

＜2020年度事業＞

- 社会的インパクト評価・マネジメントの普及・活用に向けた各種評価モデルやガイドラ インの作成
  - ■内閣府委託事業「令和2年度社会性評価・認証制度に係る調査・実証事業」
  - ■GSG国内諮問委員会「社会性評価・認証モデルプロジェクト」

- 評価支援、研修コンテンツの開発
  - ■国際協力NPOの組織基盤強化事業・NPO研修事業
  - ■団体の評価支援事業

- 自治体との 協働が不可欠となるSIBの案件組成
  - ■岡山市ソーシャルインパクトボンド事業「岡山市生涯活躍就労支援事業」

- 協会内の他事業のシナジーを生む事業を設計し、社会的インパクト センターと協会の他部門、ファンドレイジングコミュニティをつないでいく事業を協働して設計
  - ■FRJ2020オンライン
  - ■その他オンライン研修

- 社会的インパクト評価・マネジメント や社会的インパクト投資のセクター全体の発展のためのエコシステム形成
  - ■社会 的インパクトマネジメントイニシアチブ（SIMI）への参画
  - ■GSG国内諮問委員会に共同事務局として参画

©日本ファンドレイジング協会

協会全体の成果と今期のチャレンジ

協会としてのチャレンジ (議案書 29頁)

新規事業への取り組み

「共感ファシリテーションラボ」

富裕層の社会貢献への支援

会員への働きかけ

チャレンジする人を孤立させないコミュニティ創出

法人会員のお声のヒヤリング

©日本ファンドレイジング協会

活動計算書（2019年度決算、2020年度予算）

（議案書 18-19頁、32-33頁）.

	2019年度決算	2020年度予算
受取会費	22,497,850	21,460,000
受取寄付金	3,123,469	3,989,000
受取助成金等	5,825,008	13,750,000
事業収益	158,076,735	166,105,000
その他収益	11,201	1,000
経常収益計	**189,534,281**	**205,305,000**

©日本ファンドレイジング協会

活動計算書（2019年度決算、2020年度予算）

（議案書 18-19頁、32-33頁）.

	2019年度決算	2020年度予算
事業費	155,118,987	160,988,000
内人件費	54,584,847	58,213,000
内その他経費	100,534,140	102,775,000
管理費	25,780,078	40,307,000
内人件費	4,033,494	3,191,000
内その他経費	21,686,584	37,116,000
経費合計	**180,839,065**	**201,295,000**

©日本ファンドレイジング協会

活動計算書（2019年度決算、2020年度予算）

（議案書 18-19頁、32-33頁）

	2019年度決算	2020年度予算
経常前当期正味財産増減	8,695,216	4,010,000
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
当期正味財産増減額	8,625,216	3,940,00
前期繰越正味財産額	17,615,299	26,240,515
次期繰越正味財産額	26,240,515	30,180,515

©日本ファンドレイジング協会

財源の推移と目標（２０１９−２０２０年度）

2019年度実績(18-19頁)

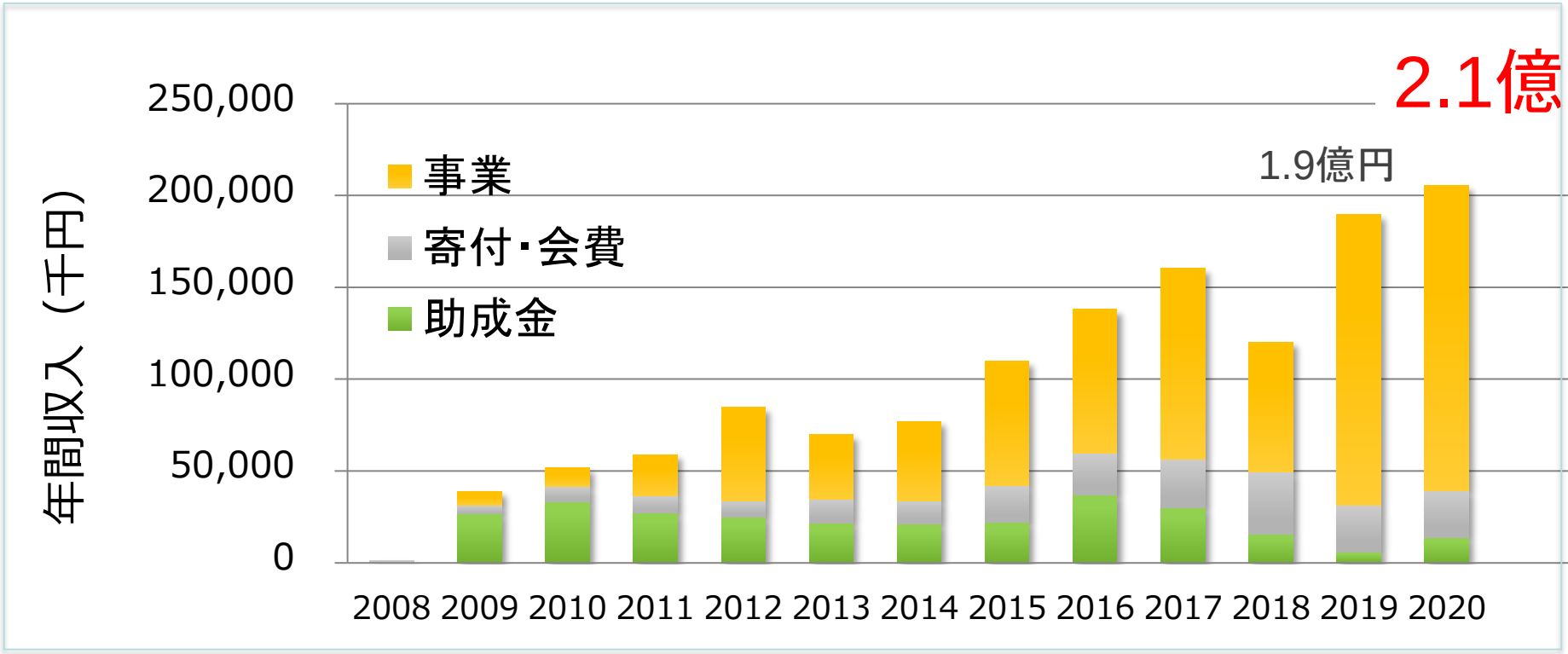
①過去最高収益（1.9億円）

②黒字転換（+8,695千円）

③事業収益過去最高（１.6億円）

2020年度目標(32-33頁)

継続的な成長を目指す



©日本ファンドレイジング協会

2020年度のチャレンジ (議案書 26頁)

新型コロナウィルス感染症の影響

会員である皆様の現場の声に耳を傾け
コミュニティーとしてのつながりをご提供し
新しいお金の流れ、さらなる寄付社会を
皆様と一緒に創り出し、
応援していく組織であり続けたい。

©日本ファンドレイジング協会

事務局体制 (議案書 29頁)

小川 愛
事務局長

大石 俊輔
マネージング・
ディレクター

宮下 真美
マネージング・
ディレクター

清水 潤子
マネージング・
ディレクター

小川 知子
プログラム・
ディレクター

岩元 暁子
プログラム・
ディレクター

小川 まき
プログラム・
オフィサー

久保 匠
プログラム・
オフィサー

細貝 朋央
プログラム・
オフィサー
(~5月まで)

©日本ファンドレイジング協会

第2部 ギャザリング

今、そして、これからの
ファンドレイジングの可能性

オープニング・メッセージ

日本ファンドレイジング協会
代表理事

鵜尾 雅隆

話題提供

山元　圭太 様
合同会社喜代七 代表

山﨑　庸貴 様
一般財団法人ふくしま百年基金 代表

薗田 綾子 様
株式会社クレアン 代表取締役

ブレイクアウトルーム

４人 - ５人で１グループ。時間は約10分

①コロナの期間で苦しかったこと、しんどかったこと。

②それを経て、取り組みたい、チャレンジしたいと思っていること。（また、協会と一緒にやってみたいと思っていることについて）

―進め方―

1. 最初にファシリテーターを決めてください。

※ファシリテーターの方は、特に印象に残ったことのメモをとっておいてください

2. まず、お一人ずつで自己紹介を兼ねて①を

3. 次に②について、お一人ずつ発表してください。